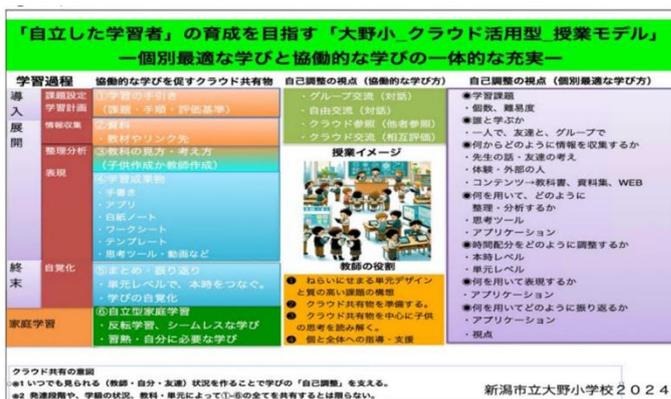


学番	1715	学校名	大野小学校	校長名	齋藤裕一	作成者名	山下信孝
学校教育推進サポート担当者名			山下信孝			電話	025-377-2046

1 実践のテーマ

情報活用能力・自己調整能力・言語能力を備えた「自立した学習者」の育成  
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実における発達段階に応じた教師の指導性～

2 テーマ設定の理由



令和6年度は、「情報活用能力と自己調整能力を備えた「自立した学習者」の育成～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～(1年次)」をテーマとして研修を進めた。研修を通して、クラウドの活用と学びの自己調整を柱に「クラウド活用型授業モデル」の確立を目指した。クラウドを活用し、学びを自己調整しながら進める授業を年間通して行うことで、子どもが自立的に学べる学習の主体者として成長して

いけるように取り組んできた。結果、「大野小クラウド活用型授業モデル」に沿って授業を行うことで、授業力が向上し、子どもの資質・能力の向上が見られた。特に、情報活用能力や自己調整能力の育成を意識して日常から取り組んできた学級は、それぞれ高い成果が見られ、CRT や全国学力学習状況調査の結果からみても国語と思考力の得点が伸びた。子ども自身が自己調整する中で、思考する場面が増えたり、対話量が増えたりする中で、基盤となる「言葉の力」そのものが伸びたからだと考えられる。

一方で課題として、以下の3点が挙げられる。

- 発達段階により、どの程度自己調整の視点から選択させるかが不明瞭なままであった。
- クラウドに準備する標準仕様アプリケーションの活用スキルに教職員間の差があり、結果として授業活用が進むクラスと進まないクラスが出てしまった。
- 自己調整の視点をもとにして子どもに選択判断を委ねる上で、教師の指導性が不明確であった。そのため、子どもに任せすぎて深い学びにつながりにくい授業も見られた。

いくつかの学級で実践し考察をした結果、展開時に、対話をしながら意欲的に交流する(自由交流)場面の指導がなされることが、子どもの深い学びにつながるのではないかという仮説が立ち、豊かな言語活動の重要性に着目した。しかし、限られた学級での取組であり、全校体制にはなっていない状況が見られた。

これらの課題をふまえ、令和7年度は、情報活用能力、自己調整能力に加え、新たに言語能力を、目指すべき汎用的な資質・能力と位置付ける。また、発達段階における取り組み方が不明瞭であったこと、自己調整の視点をもとにして子どもに選択判断を委ねる上での教師の指導性が不明確であったことを受け、副題に「発達段階に応じた教師の指導性」を入れ、今年度目指すことの柱とした。

3 実践内容

(1) 研究授業や視察公開授業を核としたOJTと日常の授業の充実

- ・教科チームでの検討と協議を通し、研究主題への共通理解を図るとともに一人一人の実践力の向上を目指す。
- ・職員が個々に研究テーマを設定し、成果と課題を明確にした上で取組を行う。
- ・授業づくり部を中心に「大野小クラウド活用型授業モデル」に位置付ける要素、目指す資質・能力の育成方法の検討・提案
- ・Microsoft Teams やロイロノート等を用いた検討会・日常の情報共有

- (2) 職員研修の充実
  - ・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の理論研修の実施
  - ・ICT活用指導力を高めるスキルアップ研修の実施
  - ・新潟青陵大学 堀田雄大様からの伴走指導
- (3) 研究会の実施による市内への横展開
  - ・クラウドを用いた指導案等の共有
  - ・対面型授業公開及び桃山学院大学 木村明憲様による講演会の実施
  - ・サイトを活用した大野小の教育DXの取組の紹介

#### 4 実践計画

実施時期	実施内容（研修会、先進校視察、授業公開等）
4月	研究計画の提示
5月	提案授業の実施
	職員一人一人の研究テーマの設定
7月	新潟市教育委員会による学校訪問
8月	対面での研修会 講師 桃山学院大学 木村明憲様
9月	新潟青陵大学 堀田雄大様から定期的な伴走指導
	前期の取組についての評価・改善
11月	授業研究会（授業公開・授業モデル提案・講師 桃山学院大学 木村明憲様 新潟青陵大学 堀田雄大様による対面での講演会）
2月 通年	研究成果のまとめ・報告書提出 各種視察の積極的受け入れ（通年）

#### 5 成果

##### (1) クラウド活用型授業モデルの再構築

学びの自己調整を構造的に支えるため、「大野小クラウド活用型授業モデル」を新たに策定した。本モデルは、昨年度策定したのものをもとに、今年度研究の副題に入れた「言語能力」「教師の指導性」を盛り込んだ。

構造としては、学習過程を導入・展開・終末、さらに家庭学習までを一つの調整サイクルとした。その学習過程の中で、個別最適な学びと協働的な学びを促すクラウド共有物として「学習の手引き」「資料」「学習成果物」などを中核に据えた。

##### ①学習の手引き

単元の課題・手順・評価基準等を事前に提示し、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにした。手引きを共有することを通して自己の進度や到達度を確認する基準として子どもたちはよりどころにしながら学習を進めることができた。

##### ②資料

必要な情報にいつでもアクセスできる環境を整備した。子どもが目的に応じて情報を選択する姿が見られた。

##### ③見方・考え方シート

思考ルールなどを用いて思考の枠組みを可視化した。当初は教師が提示したが、高学年では子ども自身が作成・共有する段階へ移行し、思考の質が向上した。

##### ④学習成果物

学習過程	探究の過程	個別最適な協働的な学びを促すクラウド共有物	自己調整の視点	言語能力育成の視点
導入	課題設定 学習計画	①学習の手引き（課題・手順・評価基準）	※学習課題 ・個数、難易度 ※誰と学ぶか（自由交流の中で） ・一人で、友達と、グループで ※何からどのように情報を収集するか ・先生の話・友達との考え ・体験・外部の人 ・クラウド共有されているもの	※指示物&クラウド共有 ・子どもに意識してほしい言葉 →教科の見方・考え方 自己調整に関わる言葉 ※価値付け ・自由交流や一斉指導の場面 ※振り返り&アンケート ・授業で使っている言葉の自覚化
展開	情報収集	②資料 ・教材やリンク先	※何をj用いて、どのように整理・分析するか ・思考ツール ・アプリケーション	※教科の見方・考え方 自己調整に関わる言葉 ※価値付け
	整理分析	③教科の見方・考え方 （子ども作成or教師作成）	※時間配分をどのように調整するか ・本朝レベル ・単元レベル	※何をj用いて表現するか ・アプリケーション ※何をj用いてどのように振り返るか ・アプリケーション ・視点
終末	表現	④学習成果物 ・手書き・アプリ ・白紙ノート・ワークシート ・思考ツール・動画 など		
	自覚化	⑤まとめ・振り返り ・学びの自覚化		
家庭学習		※自立型家庭学習		

教師の手立て

- ① ねらいにせまる単元デザインと質の高い課題の構想。
- ② クラウド共有物を準備する。
- ③ クラウド共有物を中心に子供の思考を読み解く。
- ④ 個と全体への指導・支援。

※発達段階や、学級の状態、教科・単元によって①-④の全てを共有するとは限らない。

ノートにまとめる、学主用端末を用いて keynote などのアプリでまとめるなど、表現方法を自己選択した。また、クラウド共有により他者参照を可能にした。自分と異なる考えに触れることで新たに気付いたり同じ考えに触れることで自分の考えに対して自信を深めたりする姿が見られた。

#### ⑤まとめ・振り返り

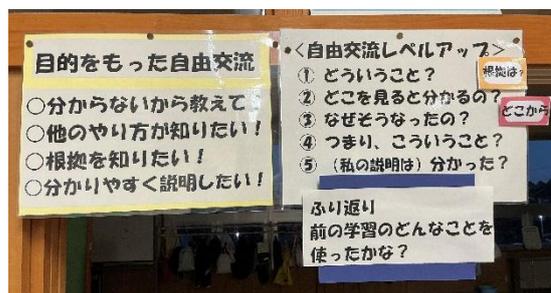
授業の終末に、「学び方」と「学んだこと」という視点で振り返りを行った。こうすることで、子どもたちは学習のつながりを意識でき、自分の成長を実感することができた。振り返りをクラウドで共有することで、友達の考えをヒントにしたり、自分の歩みを客観的に見つめ直したりすることができた。

全職員で「クラウド活用型授業モデル」を共有し、教師の指導性を発揮しながら研究を進めた。年間を通じて、クラウドを活用しながら子どもたちが学びを自己調整する授業を継続したことで、自立した学習者の育成に向け、着実な歩みを進めることができた。その成果は、新潟市学習・生活意識調査の大野小独自項目にも顕著に表れている。「タブレットでの意見交流により、新たな視点やより良い考えに触れられた」との回答は 91.5%に達し、「iPad の活用が学びの深化に寄与している」との肯定的な評価は 95.8%に及んだ。さらに「対人関係やアウトプットの手法を自ら選択して学習できている」との自己認識も 85.4%と高く、クラウド上での共有体験が、多角的な気付きや深い学びを支える土壌となったといえる。教職員からも「子どもが最適な学習手段を選択し、アプリ等で創造的に表現できるようになった」「子どもたちの学びの質が向上した」という声が聞かれるなど、ICT 環境の日常化が子どもと教師双方にとって有益であったといえる。

## (2) 汎用的な資質能力としての言語能力の位置付け

今年度は、自由交流や振り返りの場面での「対話」を軸に、子どもたちの言語能力の育成に取り組んだ。全職員が同じ方向を向いて取り組めるよう校内研修を行い、教員一人一人

が「言語能力育成プランシート」を作成した。取組の開始前には子どもたちにアンケートを行い、子どもたちが日頃どんな言葉を意識しているか実態を把握し、発達段階や教科の特性に合わせた指導を行うように意識した。取組の具体として、子どもの発言や思考をカードに書いて価値付けたり、対話のヒントになる言葉を教室に掲示して視覚的に捉えやすくしたりした。成果として、抽出学級で取組前と1か月後での対話する上で意識する言葉をアンケートしたところ、意識する言葉の数が大きく増え、「根拠」「共感」「比べる」「問い返す」といった、対話を深めるために重要なキーワードが目立つようになった。学習後の振り返りにおいても「友達の意見と比較して聞くことで考えが深まった」と記載する子どもも見られ、言語能力の高まりを実感する子どもが着実に増えた。



### 子どもの振り返りから

25	
26	今日は、グループみんなで話し合い、判断を立えました。より、考えが深
27	まるようなグループでの目標で考えが深まりました。今日は目標について話
28	し合い、話し合う機会が豊富になりました。話し合い、話し合う機会が豊富
29	まるということがわかりました。
30	
31	
32	
33	話し合いの時に、相手の意見に反対することは、お互いの意見をまとめることが
34	大切だと感じました。ノートでは、書く時に誤字が多くなり、学力が上が
35	って良いと思う意見を納得ができました。また、自分の意見を聞いたときに、反
36	論も手紙することも大切だと思いました。自分の考えは、変わらなかったけど、
37	色々な人と交流ができて考えが深まることができました。
38	
39	
40	

「共感する」「反論する」「良さや欠点をまとめる」  
など、他者と意見を比べながら聞くことで、考えが深まったと感じる児童が増えています。

## (3) 自立型家庭学習の確立

昨年度より、子どもたちが学習内容や方法を自ら選び、クラウド上で計画・記録を行う家庭学習 DX に取り組んでいる。具体的には、Google スプレッドシートを活用し、1日の学習計画と振り返りを一目で見られるようにしている。昨年度の実践から、学年が上がるにつれて学習意欲や自己調整能力の高まりが見られた一方、自立して取り組む子どもが一部に限られるということが課題として残った。そこで今年度は、次の改善を行った。

### ① スプレッドシートの形式を改善

従来は全員が同じシートに入力していたが、情報量が多く個々の振り返りが難しかった。そのため、今年度は個人専用ページへと刷新した。これにより、自分の記録を即座

にさかのぼることができ、学んだことを次へ活かす「適用のサイクル」が自然に働くようになった。

②学習への向き合い方を5段階で評価する「集中度メーター」の導入  
その日の学習の集中度を自己評価しグラフに反映させ可視化できるようにした。結果、取組後のアンケートでは、「振り返りがしやすくなり、明日の目標を立てやすい」「自分の頑張りが見えて、もっと頑張ろうと思える」といった前向きな記述が目立ち、主体的に学ぶ児童の割合も昨年度より増加するなど、自主学習に取り組む意欲の向上へとつながった。

成果の背景には、システムの改善だけでなく、教師が児童の記録を細かく見取り、称賛や価値付けを継続したことも一因として挙げることができる。また、子ども同士で互いの取組を参考にし、励まし合う学級の雰囲気生まれたことも、良い習慣形成への相乗効果となった。今後は、より多くの児童が明確なめあてをもち、自己調整能力を効果的に発揮できるよう、個別の支援と活用の質の向上に取り組んでいく。

8月に桃山学院大学から木村明憲准教授を招き自己調整学習について研修をしたり、11月に開催した公開学習会において再度桃山学院大学の木村明憲准教授を招き、「自己調整能力を身に付けた自立した学習者の育成」の演題の下、講演をしていただいたり、さらに川崎市立新小倉小学校、久喜市立太田小学校、新潟市立味方小学校など県内外へ研修視察をしたことで、教職員一人一人の研修テーマについて、自発的に研修をしたり意見を交換したりして高め合う姿も見られるようになった。それらのことから、職員の意識の向上も成果として挙げることができる。また、新潟青陵大学堀田雄大助教から定期的に伴走指導をいただいた。職員一人一人の授業を参観していただき、職員個々の能力の価値付けや授業における改善点等を示していただいた。それにより職員個々の授業力も向上したと考えられる。また、県内外からの視察の受け入れ、クラウド活用型授業モデルや自立型家庭学習を促すスプレッドシートの公開、近隣の学校の要請を受け当校職員による授業DXと家庭学習DXの伝達など校内にとどまることなく、外部にも大野小の取組を広げることができたことも成果として挙げられる。今年度、サポート事業の指定を受けたことで、子どもも職員も多くの学びを得ることができた。次年度もこの学びを活かしながら取組を進めていきたい。

家庭学習シート10/13～

